

■ フォーマル着物といえば、どんなイメージでしょう？

それは「〇〇式」と名がつく「場」がないと着ることが少ない特別な着物です。ザ・フォーマルの代表格は「留袖」です。若い未婚女性だと「振袖」です。実は先日京都に出張に行った時、いろんな問屋さんを巡るのですが、ちょうど来年うちの長女が成人式なもので、何かいい振袖はないかなと見て回ったんです。

問屋さんにもいろんな種類がありまして、得手不得手、向き不向き、自分の会社で柄を起こして作っているところもあれば、メーカーさんから仕入れをしている問屋さんもあります。

弊店は呉服店なので、ある意味着物は選り取り見取りに選べます。無条件に問屋に連れていくと冷汗が出てしまう場面にも遭遇しかねません(笑)ので、前もって好みの色や柄の雰囲気などを聞いておいて、数枚の中で「これの中から選んでね」スタイルをとったんですよ。



上：加賀友禅の黒留袖



下：刺繍の色留袖

取引先の担当者といろいろ話しながら見ていたら、面白い話が。担当：「先だって家族の着物を見ようとなって、いろいろ取り寄せて見せてたんですわあ」私：「そうなんですわあ」担当：「その中でね、わしがこれがええよ！と言ってたんがあったんですけどね、だあ〜れもわしの言うこと聞いてくれんですわ。」私：「えええ？何ですか？」担当：「わしが、これやったら素材もいいし、色は好みやからあれやし、好きな色の選べばええけど、この着物がええよお？って言っても無視ですわあ。わしの話な〜んにも聞かんと着物ばかり見よるんです〜わし、着物に関しては家族の中で一番のプロやのに、どう思います？もう好きにせえつと言ったんですわあ」と残念そう。恐らく奥さんかお母さんかわかりませんが、問屋さんならではの着物の知識をふんだんに使って、おすすめの前着物と、中間の前着物と、おすすめとは言い切れない着物を色々考えてお揃えになったんじゃないかと思うんです。これは「愛」だと思いますよ(笑) 女性陣はああでもない、こうでもないと楽しそうにご覧になっていたようです。でもそこには一人淋しそうに「うん、うん」と頷いて、「俺の話聞きえ〜」と心で叫んでる男性の姿を想像すると少し可哀想で、私もそういう経験あると共感したのです(笑)

そんな話を聞いたので、振袖を選ぶにも緊張が走ります(笑)一生懸命、娘の顔となぜか妻の顔を想像して頭の中でシュミレーションして、いくつかの問屋さんに協力してもらって、見せる手筈を整えたのです。よく考えると、私の家族は子供たちを除いたら全員が「プロ」でした。なんでもそうでしょうけど、写真で見るのと本物を肩にかけてみるのとでは印象や感触など雲泥の差です。

「今度振袖が揃うよ」と娘に伝えて当日。厳選に厳選をした振袖が十枚が目の前に。最初「赤は嫌かな。ピンクは絶対に嫌」と聞いていたので赤い振袖は一枚もありません。でも当日「赤はないの？」「え？」と冷汗。赤いの良いならもっと選択肢が増えたのにいと心の中で叫びましたが、そこはまあまあということで。長女も女性ですね。気に入ったのかなという振袖に手お通すと表情が笑顔に。好みじゃないのは顔でわかるタイプのようなので(笑)今回選んできたなかで、これは！着せてみたいっ！というおすすめの黒地の振袖を気に入ってくれたみたいで、めでたくそれになりました。うちはお陰様でそうならなかったよ、担当さん！すんなり決まって良かったです！帯は早々に決めていたので、次は帯揚げなどの小物合わせ。それはまた次の機会にしますね。



3月、4月は着物のシミ落としやお手入れ、仕立て替え、そして染めなどの「加工品」に関する企画展が続きます！ぜひこの良い機会に一度点検をされて、シミ落としや汚れ落とし、カビ抜きなどの部分お手入れ、しばらく着るご予定がなさそうな着物はクリーニングなど、お得にお出し下さい。

先日、着物用の「洗濯ネット」をゲットしてきました。ポリエステル製の着物や綿の着物、夏だったら麻の着物など、自宅でも簡単にお洗濯できるものには打ってつけだと思いますよ。一度お試しください。これは型崩れしそうな洋服にも、使えるかもしれませんね。優しく扱うのが丁度良い素材には使いどころです！



礼装用の着物には、大きく分けて「留袖」「訪問着」「付け下げ」があります。その中でも最近注目をしているのが「付け下げ」です。訪問着は仮仕立てになっていて、着物のカタチに近くとてもイメージしやすい雰囲気ですが、付け下げはお客様にご覧頂く状態は反物の場合がほとんどです。

着物というと、どうしても礼装 or 洒落モノの二極的な感じがとっても強いように思います。確かにその「場」にあわせたTPOのある装いは大事な文化ですし、これからも大事にしていきたいと思います。それが日本の装いの文化ですもの。でももう少し枠を大きく考えて「FASHION」と考えてみたら、〇〇式専用の装いじゃなくても、外国語でいえば「エレガンスな装い」と考えてみたら付け下げはとっても大きな可能性を秘めてるんじゃないかと思います。

訪問着でもそれは言えるかもしれませんね。最近は紬の訪問着もいろいろとありますしね。〇〇式用に着ていくのとは別に、周りの人から見たら「今日は結婚式か何かかしら？」ではなくて、「何かのパーティというわけではなさそうだけど、とても素敵な装いね」「私も着てみたい」と言われるような、着物スタイルがあるように思います。じゃ、どういう風にするの？と考えると、ひとつはやっぱり「帯」ですね。「礼装」というわけではない、それでも「洒落モノ」というわけでもない、そんな帯が数は少ないですけどあります。もし良かったら、ぜひお声をかけてください！ご提案します！（笑）

※※※※ きもの アラカルト ※※※※

小物を変えると気分が変わります

着物の小物のアイテムはたくさん！着付けに必要な道具は別に考えても、半衿や帯締め、帯揚げ、草履、重ね衿、バッグ羽織紐、帯留など、コーディネートにあわせて自由に組み合わせ。これが結構楽しいんですよ。悩ましい時もあります。着物や帯は同じでも、帯締め一本変えるだけで雰囲気がガラッと変わったり、時には面白い柄の半衿をつけて楽しかったり、草履の鼻緒を変えて気分も変わったり。小物ってあなどれないアイテムです（^▽^）

もう数年前になりますか、また和装小物バイキング（選り取り見取り、3点で〇〇円）っていう企画をしたことがあるんですけど、また今度それを、今度はアイテムを変えてしてみようかなと考え中です！前回来れなかった方、また楽しみに待っている方、またその時はぜひどうぞお楽しみに！！

